

校長室だより

No.5

校長: 古原 常能

保護者の皆様には、学校行事や授業参観など、度々学校へ足を運んでいただき、子供たちや先生方に温かいお言葉をかけてくださり感謝申し上げます。また、忌憚のないご意見も頂戴し、今後の計画の参考にしているところです。

さて、今年度より、楯岡校では運動会や学習発表会を学部ごとに実施しています。大江校では従来通り学校全体の行事としています。楯岡校の取り組み方には、賛否両論ありましたので、双方の取り組み方について考えてみました。

学校全体で取り組む行事	学部ごとに取り組む行事
○学校生活のテーマが全校生に共有される	●全校生で共有する生活のテーマが少ない
○各学部の活動場所の調整が短期間で済む	●活動場所等の調整が長期間に及ぶ
○毎年一定の活動内容で見通しが持ちやすい	●年度ごと活動内容が異なる可能性が高い
○他学部の児童生徒の頑張りが見られる	●他学部の取り組みが分からない
○学部を超えて先生方が連携する	●他学部の先生方と連携する機会が減る
●特別な取り組みを追加して行う必要がある	○学習計画に基づく日常的な取り組み
●全校生がそろって練習する必要がある	○自分たちの練習に専念できる
●一部の児童生徒が活躍する	○児童生徒の活躍場面が多い
●自分たちの出番を待つ時間が長い	○待ち時間が少なく全体の時間も短い
●障がいの重い児童生徒には負担大	○障がいの重い児童生徒の負担軽

このように、双方の取り組み方には同じくらい長所と短所があります。問題は児童生徒の人数です。大江校の規模であれば、学校全体で取り組んでも、長所が活かされます。一方、楯岡校の大きな規模になると、学部ごとに取り組んだ方が児童生徒には効果的だと考えられます。

トピックス: 医療との連携がとても大切です!

本校には、県立こども医療療育センターに主治医をもつ児童生徒がたくさんいます。楯岡特別支援学校に在学している間は良いのですが、**高等部を卒業して成人になったら、新しく別の主治医を探す必要があります。**それは、県立こども医療療育センターが18歳までの小児を対象とする医療機関だからです。

もし、お住まいの地域に「かかりつけ医院」がない児童生徒や、お医者さんにかかるのが苦手だという児童生徒には、楯岡特別支援学校、寒河江校、大江校の学校医をご紹介しますので、お気軽にお問合せください。学校医の診療科は、**内科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、精神科**となります。それぞれの学校医は、定期健康診断を通して児童生徒と繰り返し関わっていますので、個々の障がいや特性等をよく理解していただきます。

どの児童生徒も、成人してからの人生の方が長いのです。今のうちから長くお世話になれる主治医を見つけておきませんか？

